



水のお話①

《表紙の取り扱い》

題名「たいせつに、たいせつに」を読んだあと、表紙をぬいて、横にはずしてから、脚本を読み始めてください。

きょう
今日は、とつても暑い日。

おとうと
はなちゃん、弟のまもるくんとお風呂場で水遊びをしています。

きもち
ジャー、ジャー、ジャー、ジャー、気持ちいい！

みずあそび
ジャブ、ジャブ、ジャブ、ジャブ、あひるも水浴び。

おおあば
ビシャ、ビシャ、バシャ、バシャ、まもるくんも大暴れ。

おおあめ
つめ
みず
冷たい水をいっぱい出して、シャワーをふり回して、「大雨だあ！」

とき
と、その時、

しずくぼしや
みず
「お水をもっと大切に使うよ！」

なが
たび
ぼくたちは、とつても長い旅をしてここまで来たんだから。」

きこえ
この声
という声が聞こえてきました。

み
ほ
声がする方を見てみると…

【ぬく】

演出ノート



水のお話②

じゃ口の先にしずくの姿をした、坊やがいました。

はなちゃんは、しずくぼうやに聞いてみました。

はなちゃん
「水遊びって、こんなに楽しいのに。」

どうして、お水って大切なの？」

しずくぼうや
「それはね、いろんな所で、みんなの役に立ってきたからだよ。」

はなちゃん
「ふうん。しずくぼうやはどこから来たの？」

しずくぼうや
「ぼくたちはね、遠い遠い雲の中で生まれたんだよ。」

はなちゃん
「雲って、あのお空の雲のこと？」

【くめ】



水のお話③

―絵を指さしながら―

しずくぼうや 「そうだよ。雲の中から、雨になってぱらぱら降ってきたの。」

山や森は、ぼくたちがいるから、木がぐんぐん大きくなるんだよ。」

―絵を指さしながら―

しずくぼうや 「その後、川に行つて、田んぼで休んだよ。」

ぼくたちが田んぼにいる間に、イネがすくすく伸びて、

みんなが食べるお米もたくさん育つたんだよ。」

―絵を指さしながら―

しずくぼうや 「旅の途中でお魚さんやカエルさんと、いっしょに遊んだよ。」

とつても楽しかったよ。」

はなちゃん

「いいなあ。」

しずくぼうや

「ぼくたちは、細くて暗い水道管を通つて、

ほら、このじゃ口へやってきたという訳さ。」

【くめ】



水のお話④

はなちゃん

「お水^{みず}って、ほんとに長い旅^{ながたび}をしてきたんだね。

ここまで来て^きくれて、ありがとう。

もうむだづかいしないわ。まもるくんもお水^{みず}を大切にしようね。」

まもるくん

「たいせつに、たいせつに！」

しずくぼうや

「じゃあ、ぼくたちはこれからまた、お空^{そら}に帰^{かえ}るね。

はなちゃん、まもるくん、いつかまた会^あおうね。」

はなちゃん

「さよなら、しずくぼうや。また遊^{あそ}びに来てね。バイバイ。」

そして、しずくぼうやは、虹^{にじ}を登^{のぼ}って、雲^{くも}に帰^{かえ}っていきました。

— おしまい —